

(3) 年少人口と老年人口のバランスは、数年で劇的に変化していた

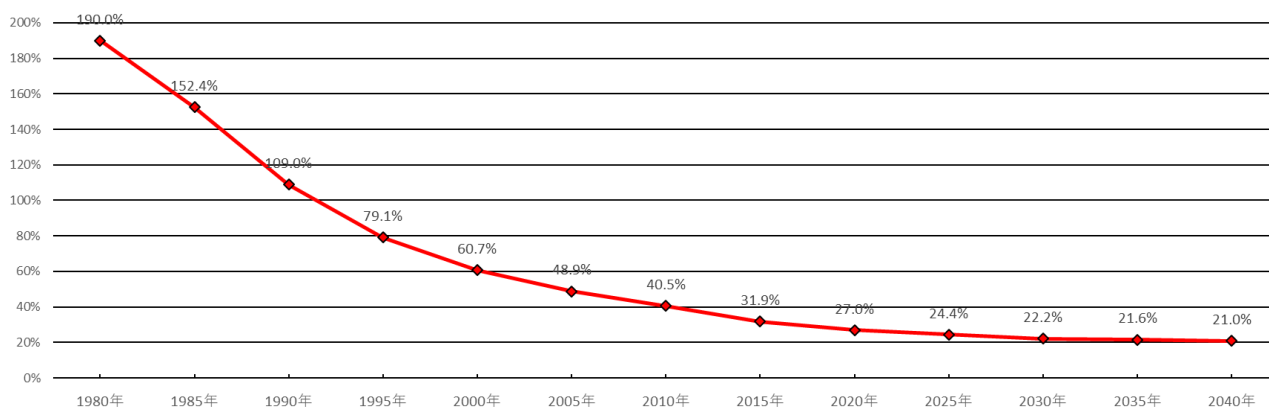
前述にある図表-4 七尾市の年齢別人口推移より、年少人口と老年人口に着目してみると、1980年代では、年少人口が老年人口を2倍近く上回っていた。

1990年頃には年少人口と老年人口がほぼ等しく、バランスがよい状態といえる。このことから、およそ年少人口：生産人口：老年人口＝1：3：1の人口バランスが最適な状態といえるであろう。

2000年以降では、老年人口が年少人口を上回り、2005年には老年人口が年少人口を2倍超えとなり、1980年代と逆転してしまっている。

将来人口推移をみても、2030年頃が老年人口のピークと予測されているため、その後は20%付近を推移していくことになるだろう。但し、年少人口の減少が進めばこの限りではない。

図表-1 七尾市の老年化指数の推移



	(人口)							
	1980年	1985年	1990年	1995年	2000年	2005年	2010年	2015年
65歳以上	8,521	9,963	11,519	13,556	15,090	16,423	17,118	18,940
15歳～64歳	37,418	33,807	29,571	37,418	33,807	37,418	33,807	29,571
15歳未満	16,191	15,184	12,552	10,723	9,167	8,023	6,932	6,041
老年化指数 (15歳未満/65歳以上)	190.0%	152.4%	109.0%	79.1%	60.7%	48.9%	40.5%	31.9%

	(人口)				
	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年
65歳以上	19,267	18,479	17,792	16,534	15,671
15歳～64歳	26,022	23,533	21,377	19,382	16,918
15歳未満	5,193	4,506	3,946	3,573	3,291
老年化指数 (15歳未満/65歳以上)	27.0%	24.4%	22.2%	21.6%	21.0%

※出所：総務省「国勢調査」人口問題研究所

老年化指数：65歳以上人口を0～14歳人口で割った割合